

近江 陸のみち・湖のみち

はじめに

道路は人や物資の移動には欠かせないものです。ひとくちに道路といっても、幹線道路や近隣地域間を結ぶもの、集落内のものまでさまざまな形態の道路が存在します。

近江の地について、奈良時代の有力貴族である藤原武智麻呂^{ふじわらのむちまろ}の事績を記した『武智麻呂伝』に、「この地は、公私にわたって往来する道であり、日本の東西を結ぶ陸路の要衝である」とあり、古来より日本列島の東西交通にあって極めて重要な土地であったことがわかります。

一方で、琵琶湖を利用した水上交通も近江における重要な「道路」の一つであり、『万葉集』にも「近江海、八十之湊」と詠まれるほど多くの港がありました。鉄道やモータリゼーションが発達し、陸上交通が移動の中心となった現代人からは想像もできないほどの活発な水上交通が近代以前にはおこなわれていたのです。

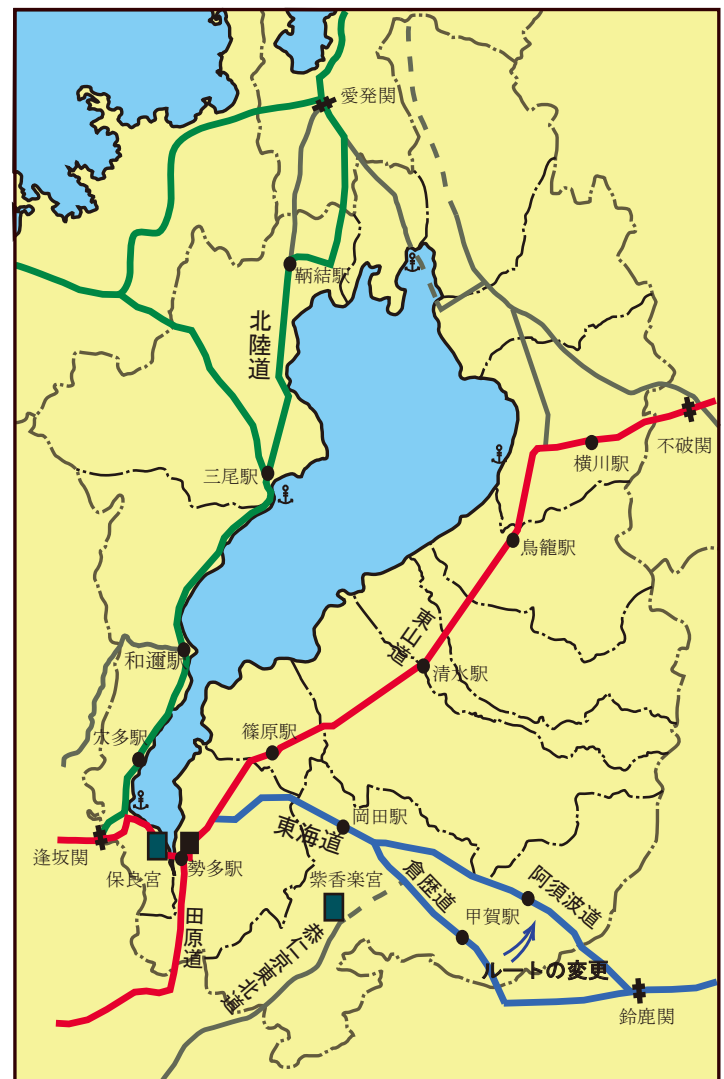
これまでの発掘調査では、幹線道路から集落間を結ぶような道路まで、多様な形態や規模の「陸のみち」がみつかるとともに、琵琶湖周辺では「湖のみち」の拠点である港なども徐々にあきらかとなっています。近江における水陸両交通に焦点を当てて歴史や特質について紹介していきます。

1. 東西二陸之喉也ー陸上交通要衝の地 近江ー

近江国は、畿内と東国の接点に位置するため、古来より両地域を行き来するための主要な交通路が幾本も整備されてきました。古代では、美濃・信濃を経て東北地方へ至る東山道、伊勢・尾張から関東地方沿岸部方面へは東海道、北陸地方へは北陸道というように東国へ向かうすべての官道が近江国を通過していました。ただし、東海道だけは、都が平城京から長岡京へ遷って以降の設置となります。

官道とは、国家によって整備された道路で、東山道や東海道をはじめとする7本の道路があり、その路線に馬の乗り継ぎなどのための施設である駅家が設置されていたことから駅路とも呼ばれていました。近江国には勢多駅など11駅あったことが平安時代に編纂された法律の施行細則である『延喜式』によって知られています。

これら三道が近江国を出た所には、三関とも称される古代において最重要の関が置かれていました。東山道の不破関、東海道の鈴鹿関、北陸道の愛発関です。関の設置場所に注目すると、近江国は三関の内側にあり、当時の政権にとって近江国は重要な地であったことがわかります。



■ 宮 ■ 国府 ● 駅家 ㄗ 関 ↓ 重要港

古代近江の主要交通路

2. 発掘された道路と関連施設

奈良時代から平安時代の駅路が、湖南地域を中心に県内各地でみつかっています。都を中心に全国に張り巡らされた駅路は、直進性や広い幅員という特徴を持ち、ルートの一部は中山道など後の時代の街道などにも踏襲されています。

日本列島における基幹道路である駅路といっても、その路線や地域性、敷設された地形などによって、規模をはじめ施工形状が異なっていることが、これまでの発掘調査によってわかってきています。

尼子西遺跡（犬上郡甲良町）の東山道や高野遺跡（栗東市）の東海道、関津遺跡（大津市）の田原道では、道路の両側に側溝を備え、幅員も13～16mにもなる巨大な道路です。

草津市では、矢倉口遺跡や岡田追分遺跡などで、東西方向に一直線で東海道と推定される道路遺構がみつかっています。また、同市南部の野路岡田遺跡などでは、東山道もみつかっています。これらの遺跡では、幅20m以上の帯状の窪地という特徴的な形態となっています。これらの遺跡では道路跡だけでなく、周辺から方位を同じくする建物が数多くみつかっています。

東山道が瀬田川を渡る場所に架けられた勢多橋から、東へ進んだ丘陵上では、近江国庁を中心に展開する官衙群があり、その一角である堂ノ上遺跡（大津市）は勢多駅家と評価されています。

小地域間や集落間を結ぶような道路遺構では、側溝を伴わず、小礫を敷詰めて路面舗装したものや、通行によって硬く踏みしめられた面を検出することによって道路と認識できるものがあります。尼子西遺跡や出庭遺跡（栗東市）・市遺跡（愛荘町）では、礫敷道路がみつき、野村北遺跡（東近江市）の道路遺構は、溝が埋没する過程で、通行することによって踏みしめられたものです。特に尼子西遺跡の礫敷道路は、東山道から枝分かれした道路であったと考えられます。

夕日ヶ丘北遺跡（野洲市）では、側溝を伴う幅約3mの道路が弧を描くようにみつかりました。古墳時代後期頃の道路で、滋賀県内で見つかった道路遺構のなかではもっとも古いものとなります。



尼子西遺跡の東山道



高野遺跡の東海道



勢多駅家と推定される堂ノ上遺跡



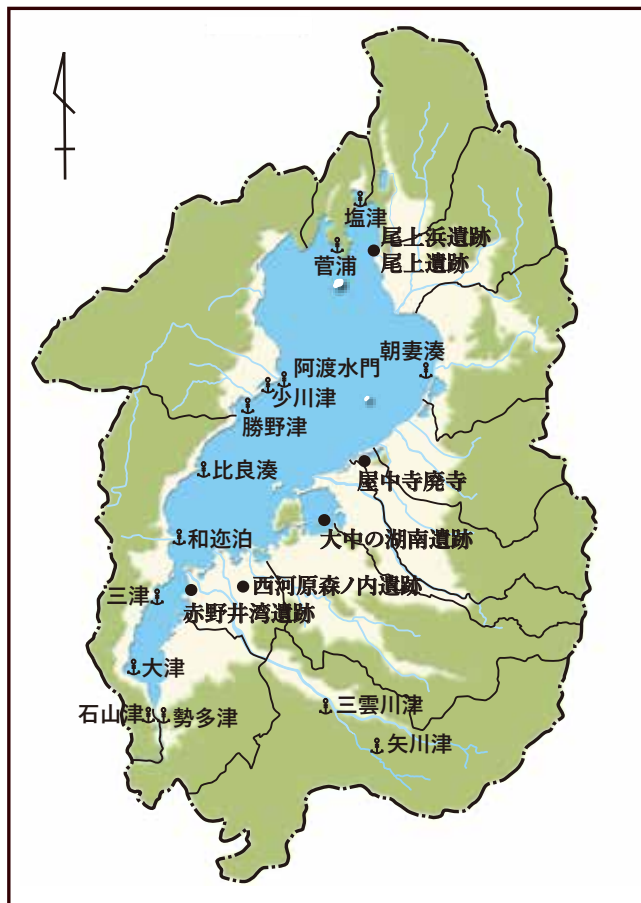
出庭遺跡の礫敷道路



夕日ヶ丘北遺跡の道路遺構（白線部分が側溝）

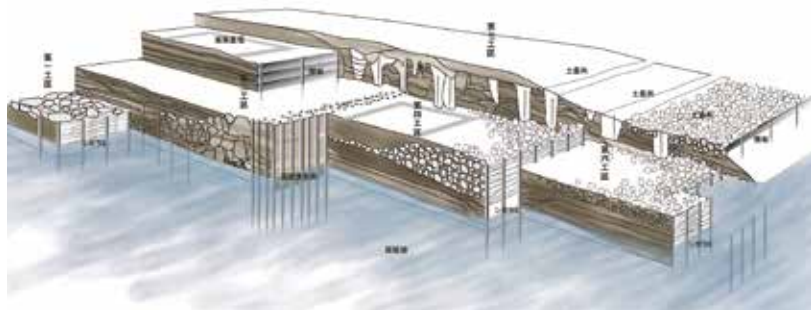
3. 近江海、八十之湊－琵琶湖水運と港関連施設－

琵琶湖や河川には数多くの港が存在したことが、文献資料によって知られています。奈良時代や平安時代だけでも大津や塩津・朝妻湊・勝野津といった琵琶湖の港、石山津や勢多津・矢川津といった瀬田川や野洲川に設けられた港などがあります。これらの文献に名前が残っている港以外にも、発掘調査によって港の存在がうかがわれる遺跡も幾例か湖辺でみつかっています。『万葉集』で詠まれた「八十之湊」を彷彿させるような港の存在と、活発な水上交通が行われていたことがうかがい知れます。



文献にみる古代の港と港関連遺跡の位置

- ・大津（延喜式、その他）
- ・三津（叡岳要記）
- ・比良湊（万葉集 巻3 274）
- ・和辻泊（類聚三大格）
- ・勝野津（続日本紀、延喜式など）
- ・阿波水門（万葉集 巻9 1718・1734）
- ・少川津（正倉院文書）
- ・塩津（続日本紀、延喜式など）
- ・菅浦（万葉集 巻3 352）
- ・津乎崎（万葉集 巻9 1734）
- ・朝妻湊（尾張国郡司百姓等解文）
- ・勢多津（正倉院文書）
- ・石山津（正倉院文書）
- ・矢川津（正倉院文書）
- ・三雲川津（正倉院文書）



塩津港の築き方

文献資料に名を遺す港で、唯一発掘調査で明らかとなったのが塩津港です。12世紀を中心に何時期にもわたって整備拡張が行われるとともに、多種多様な遺物が多量に出土しており、その繁栄ぶりがうかがえます。



赤野井湾の湖底から出土した多量の瓦

赤野井湾の湖底から、白鳳期の瓦が散乱するように計80点出土しました。完形品かそれに近い状態であることから、運搬船が荷崩れをおこし、そのまま遺棄されたものと考えられています。

琵琶湖最大の内湖、大中の湖のかつて水際であったところで、内湖へ突き出る2本の石積み遺構がみつかりました。港湾などの水運にかかわる施設であったと推定されます。



大中の湖南遺跡の石積み遺構



第1石積み遺構の調査のようす

4. 陸のみちと湖のみち—どちらで行こうか—

にしがわらもりのうち
西河原森ノ内遺跡（野洲市）から出土した7世紀後葉の木簡の一つに、「^{えちのこおり}棕□という人物が、^{へる}衣知評（愛知郡）の平留五十戸（里）にある^{たには}旦波博士家から^{うらべ}稲を持ち運ぼうとしたが、馬を調達できなかったため、舟で運ぶように^{こうじん}卜部に命じた」と記されていました。衣知評平留五十戸は、現在の彦根市にある荒神山^{やま}南西麓付近にあたります。この1点の木簡により、野洲市西河原付近と彦根市荒神山付近が、陸上交通だけでなく、湖上交通でも結ばれていたことがわかります。荒神山南西麓には、白鳳寺院として知られている^{やちゅうじはいじ}屋中寺廃寺が存在しており、衣知評平留五十戸と何らかの係わりがあったことが想起されます。



屋中寺廃寺から出土した軒丸瓦

「急がば回れ」の語源として、室町時代の連歌師宗長の歌「^{れんがし そうちょう}もののふの^{やばせ}矢橋の船は速けれど急がばまわれ^{ながはし}瀬田の長橋」に由来していることはよく知られています。東海道や東山道（中山道）方面から京都へ向かうには、矢橋港から琵琶湖を船で大津へ横断するのが陸路を進むより速いけれど、湖上ルートは荒れることも多く、遠回りになっても、瀬田の長橋（唐橋）経由で行ったほうが、かえって安全に速く行けるといことです。

この矢橋港は、発掘調査により江戸時代の船着き場とみられる2本の石積み突堤がみつかっています。湖中に43.5mの長さで突き出したこの船着き場も、琵琶湖の水位低下によって港としての機能を失ってしまいました。

東山道が瀬田川を渡る地点に架けられていたのが^か勢多橋です。宇治川に架かる^{うじばし}宇治橋、淀川に架かる^{やまざきばし}山崎橋とともに古代三橋と称され、^{たわらのとうた}俵藤太のムカデ退治などでひろく知られています。また、古代以来、数多くの戦の舞台ともなり、「勢多橋を制する者は天下を制す」とも言われてきました。

現在の唐橋の下流約80mの位置から飛鳥時代に架けられた勢多橋^{きょうきやく}の橋脚を据えた土台がみつかっています。また、そのすぐ北側からは奈良時代の土台、さらに北側では向きを斜めに変え二本の橋の痕跡が確認され、一本は平安時代から鎌倉時代、もう一本はさらに時代が下るものと推定されています。

陸上交通と水上交通は、別々に語られがちですが、共に補完しあって存在していました。古来より人はそこを上手に使い分けてきたのです。

近代になると、陸上交通には、鉄道が加わります。日本で最初に建設された東海道線は、湖東地域での建設が遅れたため、開業当初は長浜—大津間を汽船に乗り換えて琵琶湖を縦断していたのです。



飛鳥時代の勢多橋の橋脚台
（奥は現在の唐橋）



復元保存された矢橋港の船着き場